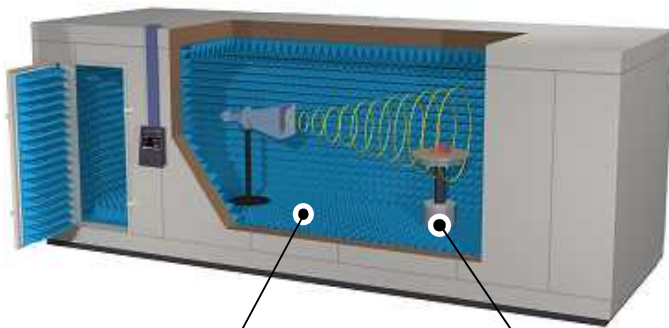


基地局の開発・評価を担当するお客様へ OTA測定での温度依存性評価や高発熱に対応した恒温槽・恒温室の提案

第5世代移動通信システム(5G)の商用開始にともない、基地局の商品化が進められております。アンテナ性能評価においては、試料からの電波が外部の機器や人に影響を与えないようにする必要があります。また、送信出力が大きい大型基地局の評価においては、発熱量が高いため、冷凍能力の大きい恒温室が求められます。エスペックはアンテナ性能評価に必要な試験環境を提供します。

アンテナ性能評価に必要な試験環境（電波遮蔽、温度、ターンテーブルなど）を提供

● アンテナ評価用恒温電波暗室



温度範囲		-40~+100℃
シールド性能	周波数範囲	0.5~30GHz※
	減衰率	60dB以上※
内法 (mm)		W14000×H3000×D7000※

※上記以外のシールド性能、内法はご相談下さい。

電波暗室内を
低温～高温で精密制御が可能

エスペック独自の保温技術により凍結を防止し、低温時でも稼働制限なくターンテーブル、ポジショナーを動作させます。

シールドボックス/電波暗箱にフレキシブルに対応可能な温度供給装置

● 精密空気供給装置

電波暗箱や電波暗室に精密温度供給装置を接続し、温度環境下でのアンテナ性能評価が可能です。空気導入用ダクトは非金属で構成し、試験体サイズに応じた電波透過ボックスを提供します。

精密空気供給装置



温度範囲：-40~+100℃

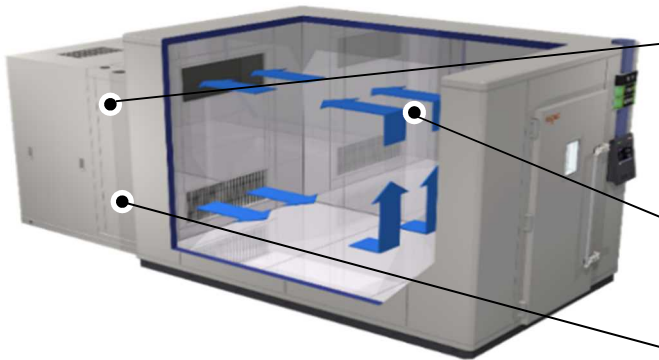
精密空気供給装置は圧縮空気やドライヤなどのユーティリティを必要としません。
駆動電源（AC電源）のみで運転が可能です。

アプリケーション例

- ・電波透過ボックス
電波透過材料を使用し、試験体の温度環境を一定に保ちます。
- ・電波暗箱/シールドボックス
お客様が保有の電波暗箱への接続はご相談ください。(弊社で準備も可能)
- ・ユニット型温度供給装置
温度調節された空気をダクトを通じて電波暗箱に供給します。

大型基地局の高発熱に対応した恒温室

●ハイパワーウォークイン



- ・送信出力が大きい大型基地局の大きな発熱に対応する冷凍システム
- ・お客様のご要望に合わせて吹き出し方向を選択できます。
 - ◇上→下への風向き (ダウンフロー空調)
 - ◇下→上への風向き (アップフロー空調)
- ・速い温度変化率に要求にも対応します。

図：下側から上方向の吹き出し方式

温湿度範囲	-70~+150℃ 20~95%rh/+20~+80℃		
許容発熱負荷	13kW (槽内温度 -40℃)		
温度変化速度(下降)	3℃/分 (温度範囲 -40~+150℃) 0.5℃/分(温度範囲 -70~+150℃)		
温度変化速度(上昇)	3℃/分 (温度範囲 -70~+150℃)		
試験室バリエーション	1型: 4.2m ³ (2.0m ²)	2型: 8.1m ³ (3.9m ²)	3型: 12.5m ³ (5.9m ²)
	4型: 16.8m ³ (8.0m ²)	6型: 25.8m ³ (12.3m ²)	8型: 34.8m ³ (16.6m ²)
	10型: 43.8m ³ (20.8m ²)	12型: 52.7m ³ (25.1m ²)	()内：設置面積

エスペック株式会社 <https://www.espec.co.jp/>
530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6

●エスペック製品や技術に関するお問い合わせは

カスタマーサポートデスク
☎ 0120-701-678 Tel:06-6358-4753

穂高電子株式会社
Hodaka Denshi Co.,Ltd.

URL: <https://www.hodaka.co.jp/>

本社：TEL 045-595-9394
拠点：横浜営業所、厚木営業所、東京営業所
名古屋営業所、三重営業所、浜松営業所
関西営業所、京都営業所、岡山営業所